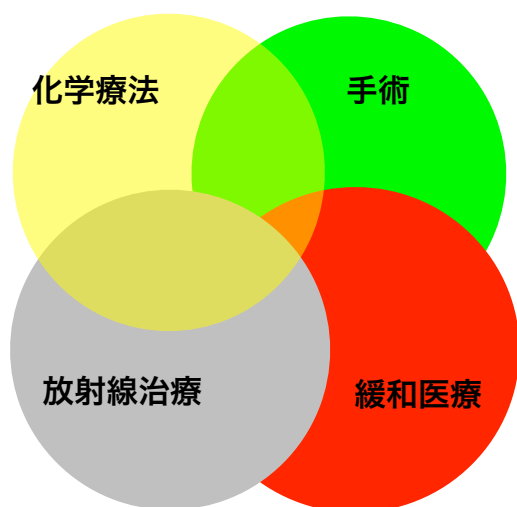


がんの集学的治療



がんの種類や進行度に合わせて様々な治療法を組み合わせて行う治療を集学的治療といいます。代表的な治療には手術、化学療法、放射線治療などがありますが、更に治療早期から緩和医療チームが加わる事による精神的なサポートも重要な治療といえます。

分かりやすい具体的な例でいうと、乳癌などは診断後に手術で病巣を切除したり、抗がん剤やホルモン剤を投与します。手術の前に化学療法を行う場合もあります。更に必要に応じて放射線治療を追加する場合があります。

当院ではこのような集学的治療を必要に応じて行っています。

カンサーボードと我が国に多いがん以外に対する集学的治療

我が国に多いがん（胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、肝臓がん）に対しては積極的に集学的治療を行うという観点からカンサーボードと呼ばれる「複数の診療科、様々な職種が集まり多角的に治療方針を決定する検討会」を定期的に開催し、症例毎の治療方針を決定したり、治療後の経過を共有しています。出席者も外科、内科、放射線科など直接治療に係わる担当科だけでなく、病理医や放射線診断医、リハビリテーション科が参加する場合があります。病棟看護師以外にも緩和や連携部門の看護師、ソーシャルワーカーなど広い部門から担当者が集まり、積極的な活動を行っています。

上記以外のがんに関しても連携が必要な場合が多いがん（例えば脳腫瘍や食道がんにおける外科と放射線、移植を含む血液腫瘍と口腔ケアなど）に関しては担当科同士の定期的な検討会を開催している場合があります。希な疾患に関しては直接担当科から他科に協力を求める形で症例毎に集学的治療を行う体制を取っています。

また直接の治療に関してだけでなく、その経過中に起きた有害事象などについても積極的に院内を横断する形で複数の科が協力し合う体制が出来ています。放射線治療や化学療法に合併する口腔粘膜障害に対しては口腔外科の中に「口腔ケア外来」が設置されています。化学療法に関する皮膚障害に対しては皮膚科と早期から連携出来る体制が出来ています。高度な精神的サポートが必要な場合には緩和ケアチームだけでなく、精神科の先生に支援して戴ける体制が出来ています。更に当院のがん診療に関係する全科が集まり主に診療体制などを調整したり情報を共有する腫瘍センター会議を毎月開催しています。

このように当院ではどんながん腫でも集学的治療を行える体制を整えております。詳しくは担当医にご相談下さい。